参考資料②

水泳授業に関する実態調査結果

概　要

●目　　的

　水泳授業の更なる民間活力の活用に向け、各学校の実情に応じた対策を検討するため、実態を把握することを目的に実施

●調査対象

　市立全小中学校（小学校115校、中学校52校 ※プール未設置校も含む）

●調査内容

　令和６年度の水泳授業の実施内容等（※新小倉小は一部回答）

●調査期間

　令和７年６月３日から同年６月１３日まで

質問１：令和６年度の水泳実技指導の実施について

質問１－１：計画時数に対する実施時数の割合

小学校　89.1%　　中学校　92.5%

質問１－２：計画時数及び実施時数の平均（１時間授業＝小学校は４５分、中学校は５０分）

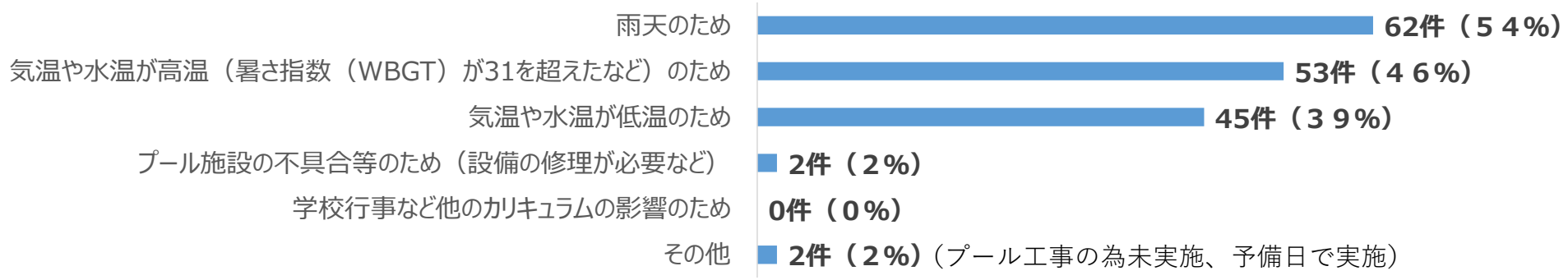
	計画時数の平均	実施時数の平均
小学１・２年生	9.3	7.9
小学３・４年生	9.1	7.9
小学５・６年生	9.1	7.9

	計画時数の平均	実施時数の平均
中学１年生	7.6	6.9
中学２年生	7.3	6.6
中学３年生	10.6	9.6

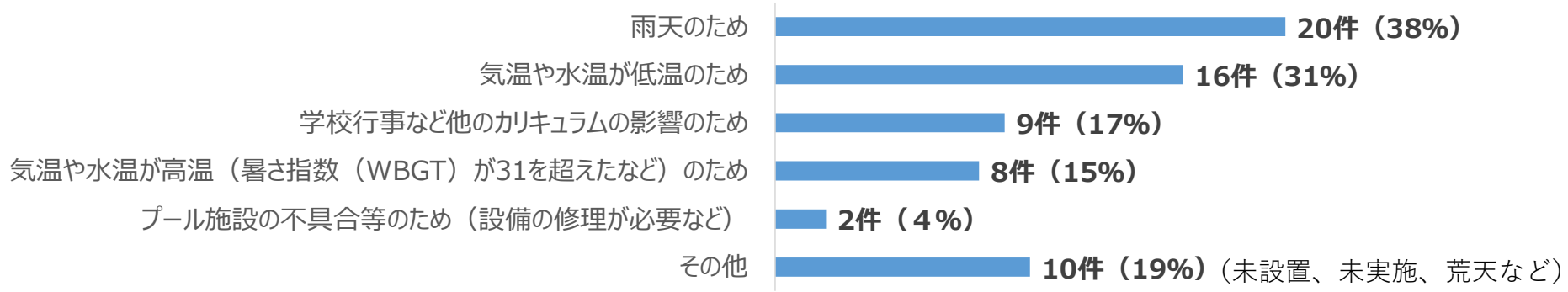
質問１：令和６年度の水泳実技指導の実施について

質問１－３：計画通りに実施できなかった理由（複数回答可）

小学校



中学校



質問１：令和６年度の水泳実技指導の実施について

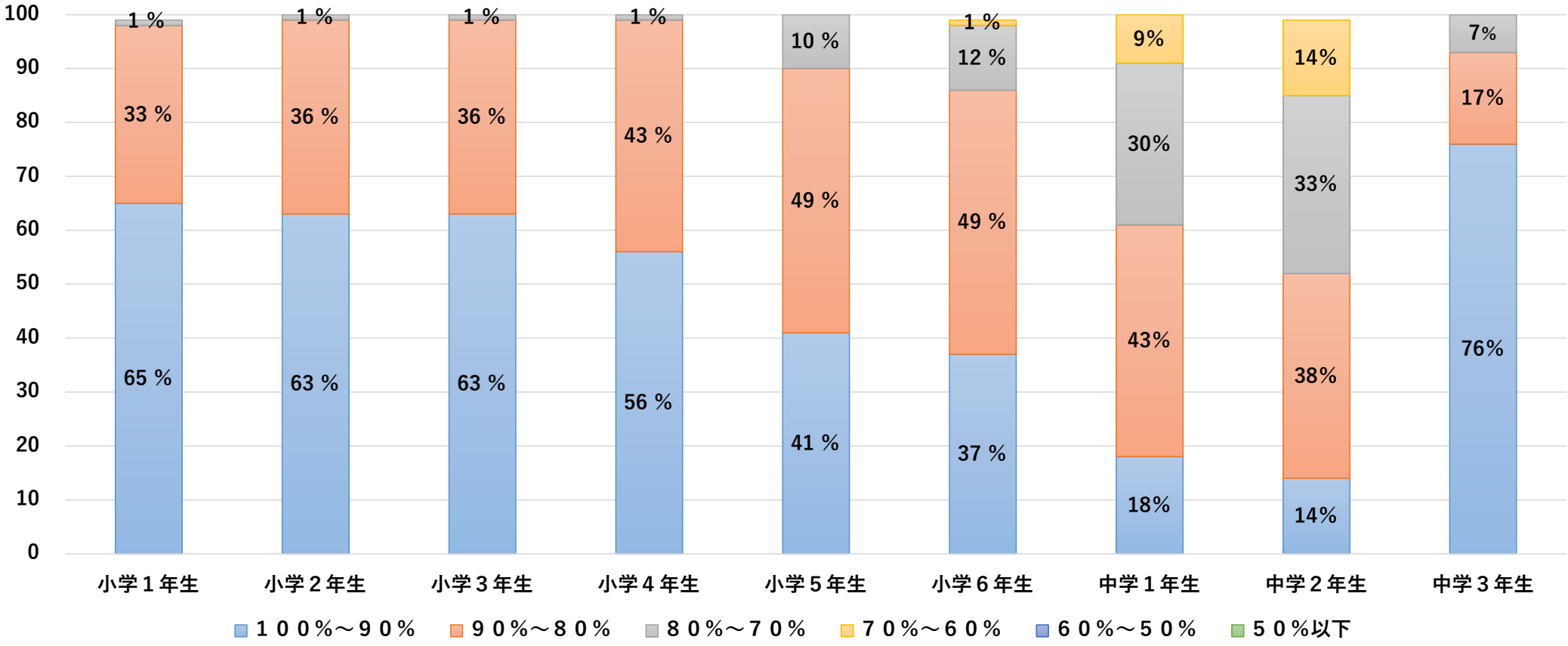
質問１－４：授業の実施形態

	１学級単位で実施	同学年の複数学級が合同で実施	学年全体で実施	その他	その他の内訳（校数）
小学１年生	0校（０%）	25校（22%）	70校（61%）	19校（17%）	低学年合同18、未実施1
小学２年生	0校（０%）	22校（19%）	73校（64%）	19校（17%）	低学年合同18、未実施1
小学３年生	0校（０%）	26校（23%）	70校（61%）	18校（16%）	中学年合同17、未実施1
小学４年生	0校（０%）	30校（26%）	66校（58%）	18校（16%）	中学年合同17、未実施1
小学５年生	0校（０%）	30校（26%）	64校（56%）	20校（18%）	高学年合同19、未実施1
小学６年生	1校（１%）	26校（23%）	66校（58%）	21校（18%）	高学年合同19、未実施1、未回答1

	１学級単位で実施	同学年の複数学級が合同で実施	学年全体で実施	選択制で実施	その他	その他の内訳（校数）
中学１年生	4校（8%）	38校（73%）	2校（4%）		8校（15%）	未設置5、未実施3
中学２年生	3校（6%）	37校（71%）	2校（4%）		10校（19%）	未設置5、未実施5
中学３年生	0校（0%）	7校（13%）	1校（2%）	34校（65%）	10校（19%）	未設置5、未実施5

質問１：令和６年度の水泳実技指導の実施について

質問１－５：入水しての授業参加率（各学年の参加率の割合（%））

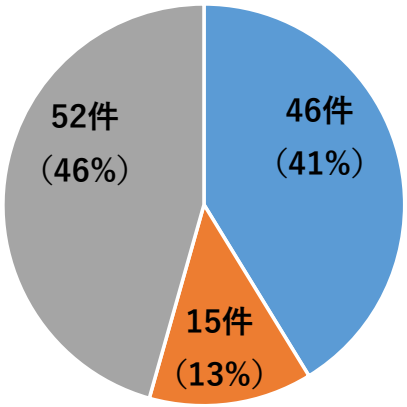


※実技指導を実施している学校のみの結果

質問２：見学者への対応について　※実技指導を実施している学校のみの結果

質問２－１：見学場所

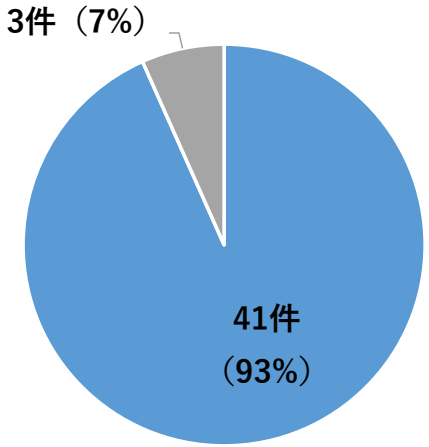
小学校



■プールサイド　■屋内　■プールサイド又は屋内

※「屋内」には民間プール等を利用している学校も含む

中学校



■プールサイド　■プールサイド又は屋内

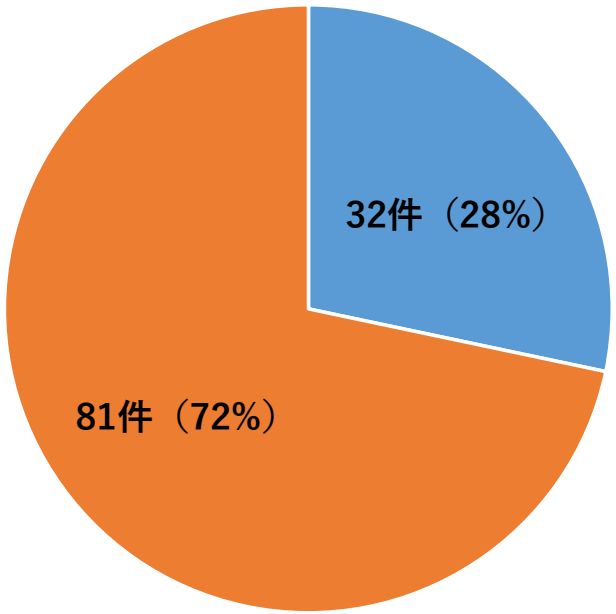
質問２－２：学習内容

小学校　学習カードでのポイント学習や見合い　81.6%

中学校　学習カードでのポイント学習や見合い　１００%

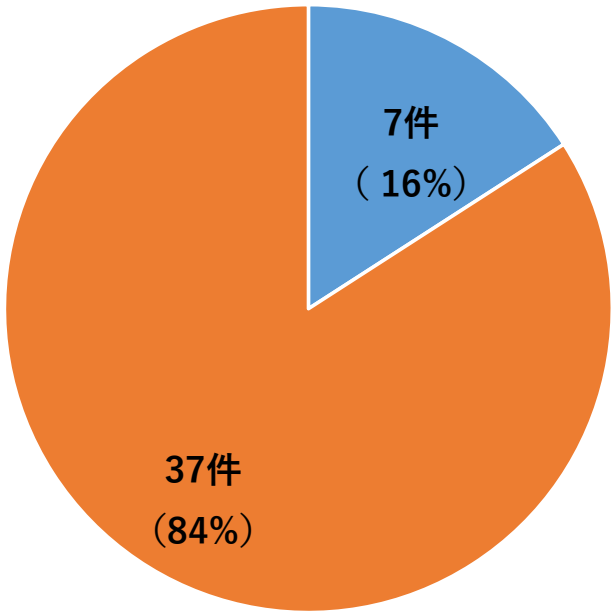
質問２－３：見学者への指導者数の増員　※実技指導を実施している学校のみの結果

小学校



■ 見学者への指導のために計画以上の教職員等を配置している
■ 見学者への指導のために計画以上の教職員等を配置はしていない

中学校

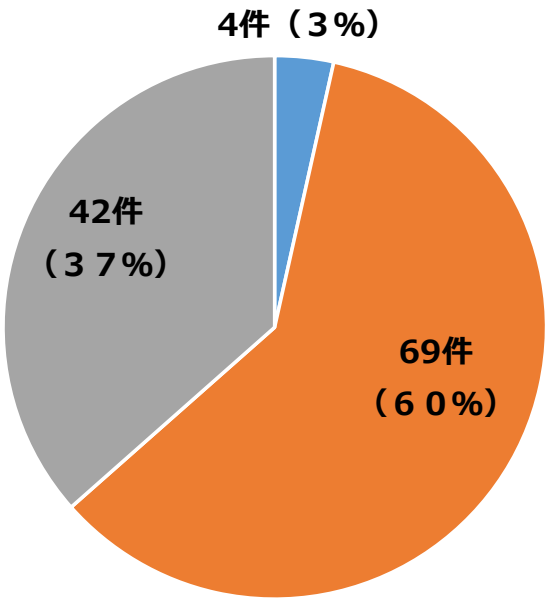


■ 見学者への指導のために計画以上の教職員等を配置している
■ 見学者への指導のために計画以上の教職員等を配置はしていない

質問３：水泳授業における指導及び監視体制について

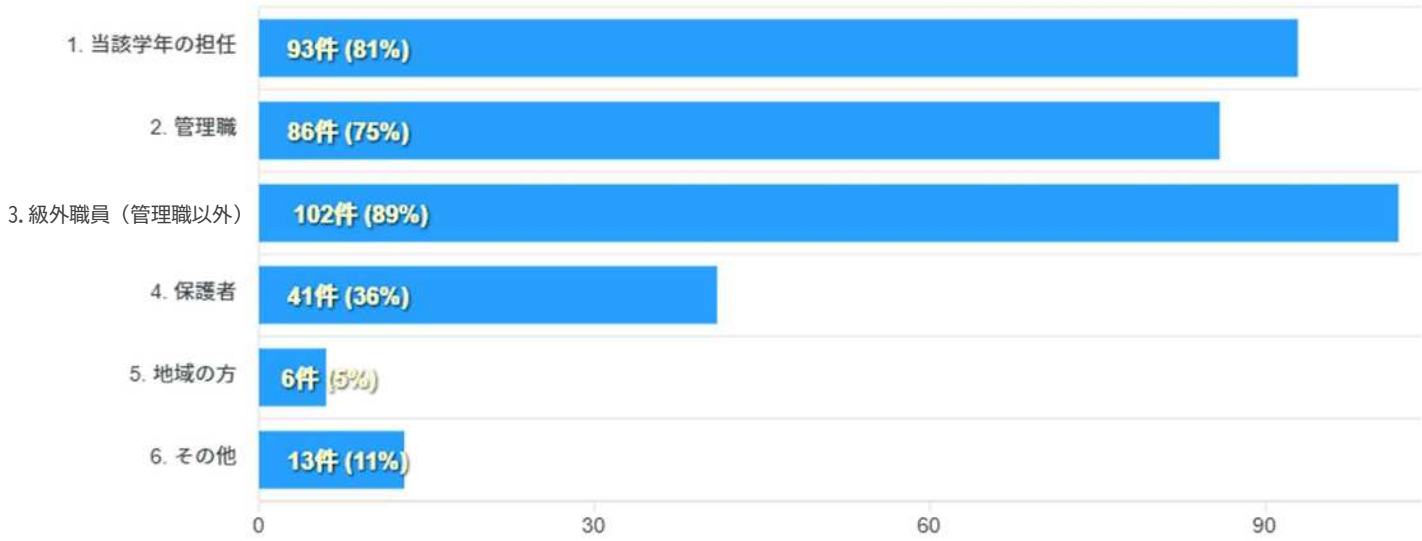
質問３－１：【小学校】計画している配置人数、人材

小学校



■クラス数　■クラス数＋１名の配置　■その他

その他：大半がクラス数＋１名より多く配置している。
例　クラス数＋２名、ボランティアや保護者を配置等



（複数回答可）

その他：学校内の人材（体育専科、空き時間の教職員、校務員）
外部人材（学生ボランティア、学校サポーター、インターンシップの学生、民間プールの職員）

質問３：水泳授業における指導及び監視体制について

質問３－１：【中学校】１回の授業で実施するクラス数と指導人数、保健体育科の教員以外に配置している教職員等

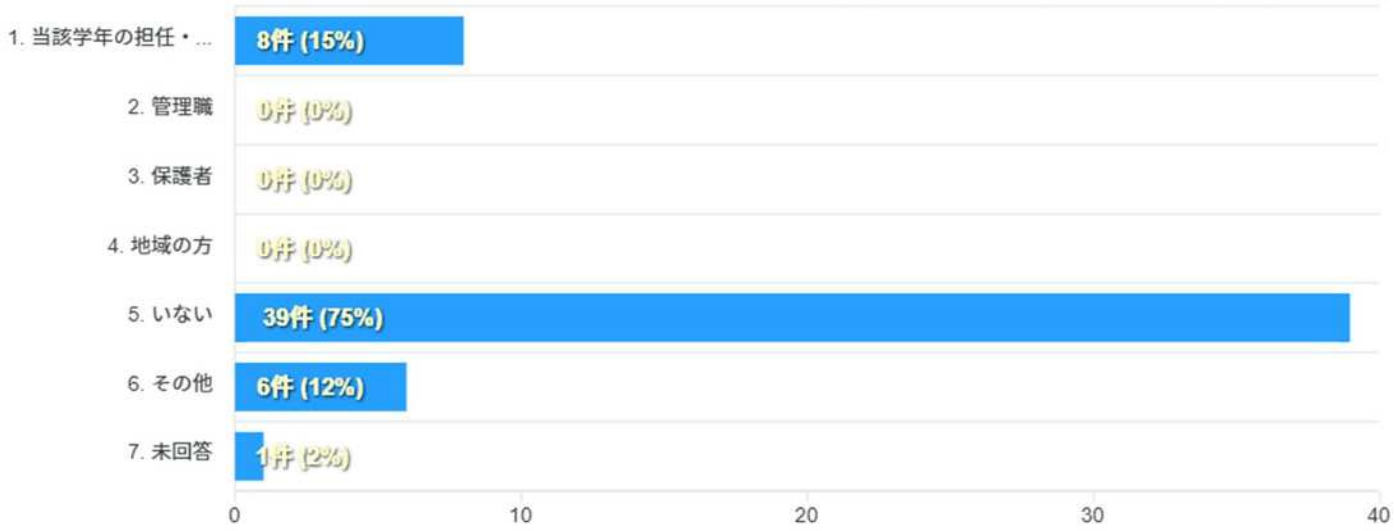
中学校

１回の授業で一度に入るクラス数

平均 2.2 クラス

１クラスに対する指導人数

平均 1.6 人



その他：配置してはいないが、学年の先生に様子を見るように声かけしている　など

質問３：水泳授業における指導及び監視体制について

質問３－２：指導及び監視体制を整備するために、工夫していること（自由記述）　主な意見

小学校

〇保護者にボランティアを依頼（39件）
・毎年、保護者ボランティアを募り、多くの大人の目で安全に配慮できるようにしている。　等
〇校内の人材でやりくり（19件）
・管理職や級外の空き時間を全て洗い出し、監視者を決めている。等
〇外部人材に依頼（10件）
・近隣のスイミングスクール指導員に指導補助を依頼している。等

中学校

〇複数で役割分担をし、習熟度別指導や安全管理をしている。（19件）
・入水する教員、外から監視する教員。全体を見る教員で分かれ、必要に応じて学年職員などにも協力を得る。
・普段の授業では担当していない学年の授業でも、体育科がプールを巡回するようにしている。
・習熟度別のグループ学習、T・Tを実施している。
・男女の教員がプールにいるようにしている。　等

質問３：水泳授業における指導及び監視体制について

質問３－３：指導及び監視体制を整備するために、課題になっていること（自由記述）　主な意見

小学校

〇人員不足（49件）

・当該学年以外の教職員（管理職や級外教員等）の監視では、学校運営に支障が生じる。

・学年行事等が重なってしまうと、級外の監視がいなくなってしまう。　等

〇調整の難しさ（22件）

・天候、暑さ指数による急な変更の連絡調整が複雑である

・保護者ボランティアの人数確保と日程調整が困難。学習前の教員との打ち合わせの時間の確保が難しい。　等

〇技能差等による個別対応や見学者対応の難しさ（4件）

・指導できる教員が少なく、子どもたちをきめ細かく指導することが難しくなってきていると感じている。

・見学者に対する十分な支援が行うことができない。

・個別に支援の必要な児童がいる場合の人数配置。　等

質問３：水泳授業における指導及び監視体制について

質問３－３：指導及び監視体制を整備するために、課題になっていること（自由記述）主な意見

中学校

〇人員不足（9件）
・水泳の単元時は担当時数以上になる教員が出てくるため、働き方としては課題がある。
・複数体制を組みたいが、教員の負担が多く困難である。
・体育科教員の男女比（女性教員が少ない）。　等

〇技能差等による個別対応や見学者対応の難しさ（4件）
・泳力が乏しい生徒への指導の手が足りない。
・個別対応が必要な生徒が増えてきており、これまでの対応では技能指導、安全確保が難しくなってきている。
・見学者の活動場所確保が難しく、気温が高い場合は教室に移動しているが、見学者対応に人数を割かれる。等

〇その他（5件）
・プール幅がせまいため、２クラス同時だと指導が難しい。
・高温により水温の上昇を抑えるのが大変。水を足しても水温が高くなり、水質維持も大変。等

質問４：着衣泳について

質問４－１：着衣泳の令和７年度の計画について

小学校

計画している	95校 （83%）	• 全学年で計画　2校 • 高学年で計画　84校 • 高学年以外でも計画　9校
計画していない	20校 （17%）	

中学校

計画している	2校（4%）	• 全学年で計画　1校 • １年生で計画　1校 ※支援級のみ計画している学校１校有
計画していない	50校（96%）	

質問４－２：着衣泳の令和６年度の実施について

小学校

実施している	82校 （72%）	• 全学年で計画　2校 • 高学年で計画　74校 • 高学年以外でも計画　6校
実施していない	32校 （28%）	

中学校

実施している	1校（2%）	• １年生で計画　1校 ※支援級のみ実施した学校１校有
実施していない	51校（98%）	

質問４：着衣泳について

質問４－３：着衣泳を実施にあたっての工夫計画について

小学校

〇外部講師を依頼（16件）
・民間プールのインストラクター
・保護者・地域の方に依頼
〇校内で工夫（9件）
・事前に動画を見せて指導している
・校内で内容を検討して実施

中学校

〇校内で工夫（1件）
・動画を見せて知識を得られるようにしている

質問４－４：着衣泳をしなかった理由（複数回答可）

小学校

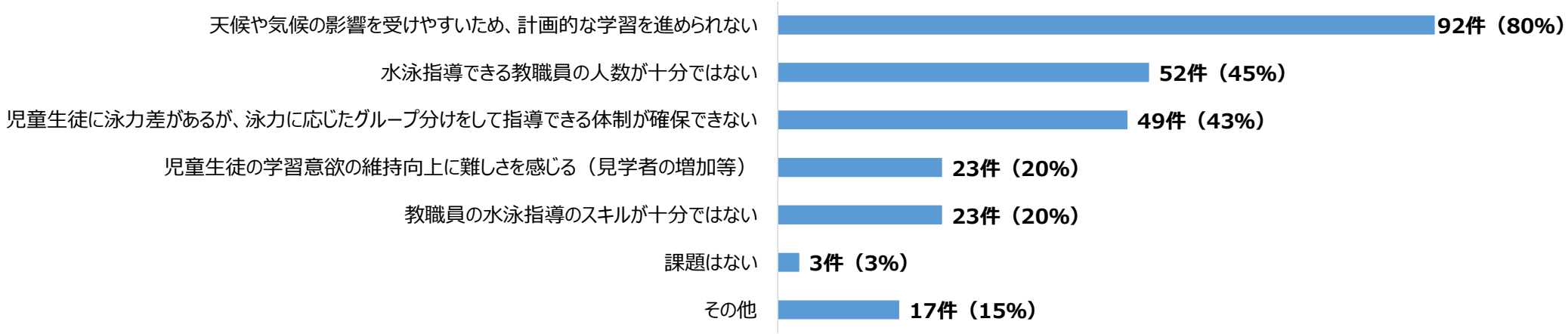
計画していたが実施できなかったため	13件
指導できる体制が整わないため	11件
実施が必須ではないため	43件
その他 ・民間プールを使用しているため ・水質保持のため ・本校のねらいと合わないため　など	8件

中学校

計画していたが実施できなかったため	3件
指導できる体制が整わないため	21件
実施が必須ではないため	29件
その他 ・知識の理解を深める学習活動 ・授業時数に組み込むのが不可能 ・未設置　　など	7件

質問５：水泳指導を行う上で学校としての課題（複数回答可）

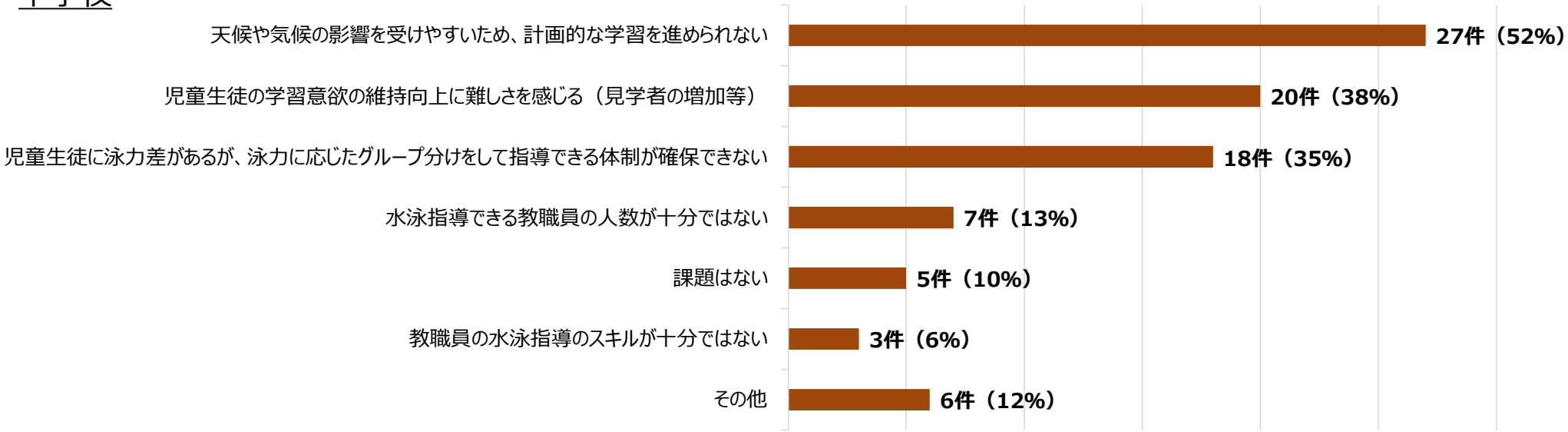
小学校



＜「その他」の主な回答＞
・天候（雨天及び、高温）による実施判断と安全管理が難しい。
・児童数が多すぎて、十分な指導、学習時間を確保できない。プールも小さいのでクラス数が多いと入れる回数が少なくなる。
・着替えへの配慮
・学年によって児童の意欲に差がある（見学者が多い）。
・職員によるプールの管理に困難さを感じる。
・設備の老朽化、水位調整の困難さ

質問５：水泳指導を行う上で学校としての課題（複数回答可）

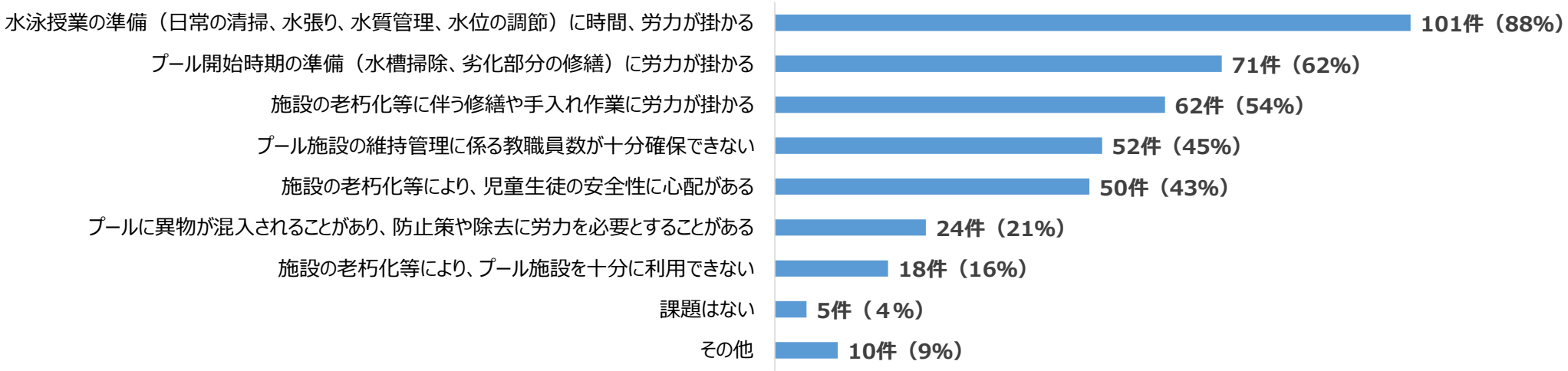
中学校



＜「その他」の主な回答＞
・プールが校内の端に位置しているため着替え等含めると時間にゆとりがない。
・プール設備の関係　機械の不調から塩素濃度のコントロールが難しい場合がある（濃度が低いと入れないため）
・人数が多いため、活動時間や安全の確保に難しさを感じる。

質問６：維持管理を行う上で学校としての課題（複数回答可）

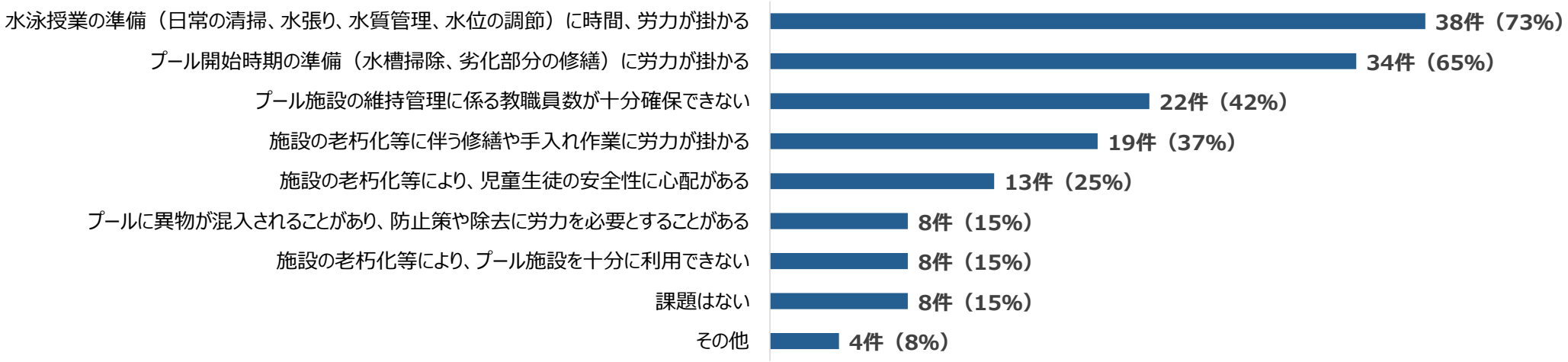
小学校



＜「その他」の主な回答＞
・ため池プールなので、水を徐々に減らしながら６学年が入ったところで全ての水を抜いて、清掃しなければならず、水の管理が非常に大変である。
・業者のプール清掃後から水泳学習が始まる前の３週間の水質の管理を一部の教員でする負担が大きい。水泳学習が始まってからも水の管理に神経を使っていて、学級担任をしながらの管理は大変。

質問６：維持管理を行う上で学校としての課題（複数回答可）

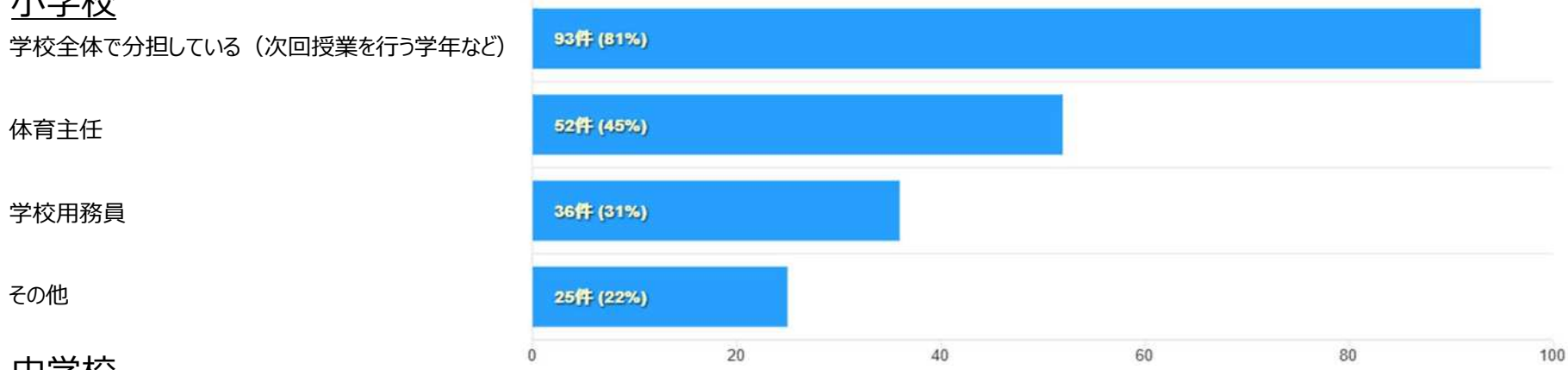
中学校



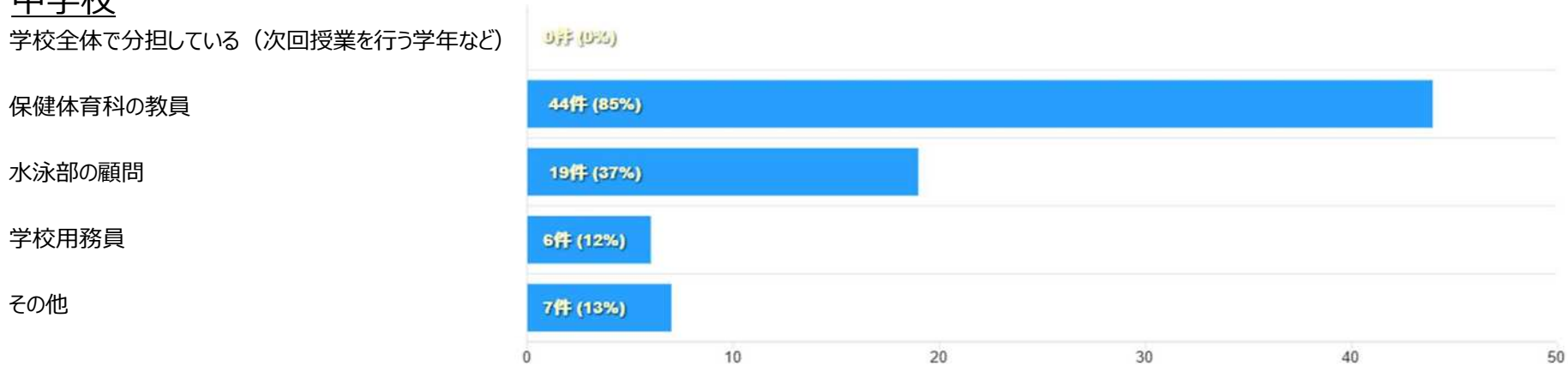
＜「その他」の主な回答＞
・安全確保と技術指導に必要な環境整備することに労力がかかり過ぎる。

質問７　学校プールの維持管理業務を主に行っている教職員等

小学校



中学校



質問８　令和６年度の水泳授業実施期間における学校プール維持管理業務時間（１週間の概算）

※例：１日６０分×５日間＝３００分

小学校

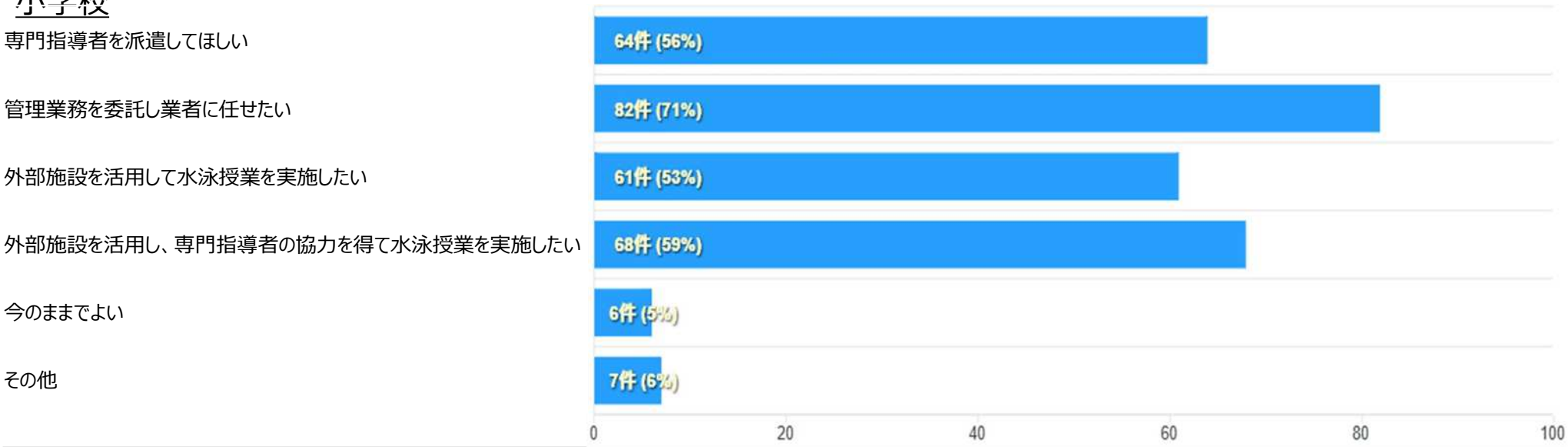
３４９．１分 → １日に約１時間１０分

中学校

２５８．３分 → １日に約５０分

質問９：今後の水泳指導やプールの維持管理の在り方について（複数回答可）

小学校

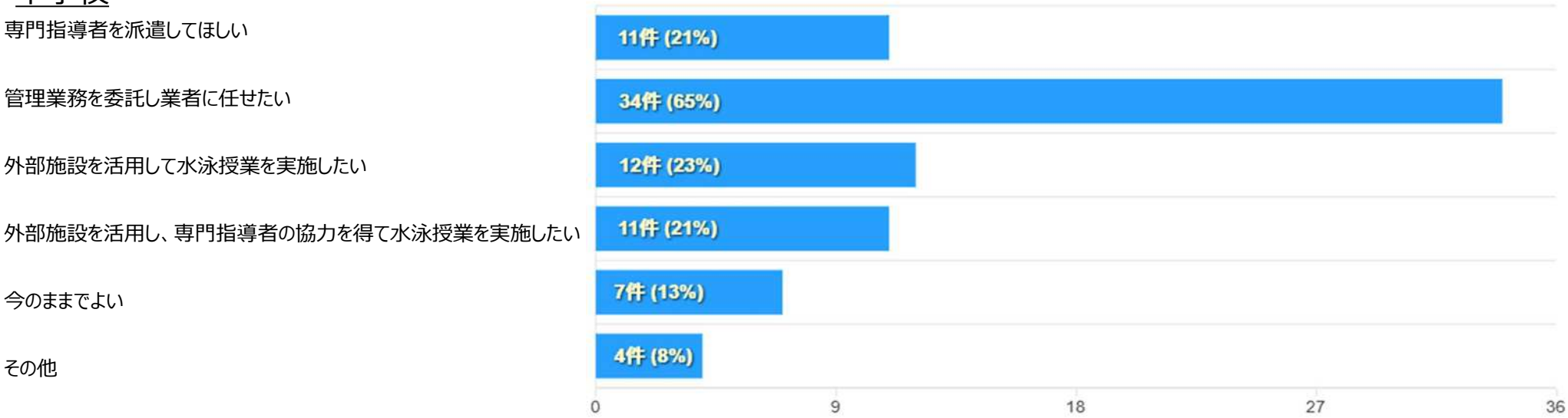


＜「その他」の主な回答＞

- 毎回でなくてもよいが、専門的な指導ができるゲストティーチャーに指導してもらう機会があると、子どもの意欲が上がっていくと思います。
- 季節や天候を気にせずに実施できるとカリキュラムを組むときの幅が広がると考えます。
- 監視業務を教職員で賄うことができず、毎回3名程度の保護者ボランティアで対応しているが、万が一事故が起きた時、監視業務を引き受けていた保護者の責任が問われてしまうことはないか心配である。
- 外部コーチの指導方法をもっと学ぶ。
- 設備が古いことが影響していることが多いので、新しい環境にととのえてほしい。
- 用務員ではなく、校務員にもプールの維持管理をおねがいしたい。
- 塩素管理などの自動化

質問９：今後の水泳指導やプールの維持管理の在り方について（複数回答可）

中学校



＜「その他」の主な回答＞

- 国の水泳指導に対する根本的な路線変更。安全確保や体力向上につながるような指導の方が個人的には水嫌いを減らせるのではないかと感じます。
- 中学校区で一つでいいので「室内プール」を設置。そうすることで、夏の時期以外にも水泳の授業の実施が可能になる 。
- 本校ではプール清掃から維持管理までの多くを、水泳部が担ってくれているので助かっている。しかしこれを保健体育科のみで実施するとなると、かなりの負担になると考えられるのでそこが課題である。

質問１０：（中学校のみ）水泳部などの活動は、プール施設を使用できない時期はどのように活動をしているか

中学校

水泳部がある学校　２２校

・外部プール施設を使用している　１５件の回答
・体力向上の取組をしている　１７件の回答